



てんかんってなに?

どんな
病気?

脳の神経細胞は電気信号を使って情報を伝達していますが、その電気活動が突然異常をきたすことで「てんかん発作」が起こります。こうした発作が繰り返し起こりやすくなった脳の状態(病気)を「てんかん」と呼びます。100頭に1頭の割合で起こるといわれる、犬の神経疾患のなかでもっとも多い病気です。

おもな
症状

てんかん発作は
大きく分けて2タイプ。

全般発作

全般発作のうち前足に強直発作(足をびーんと突っ張る)、後ろ足に間代発作(ガクガクと激しく動く)が起きている様子。意識がなく、ヨダレを大量に出す、尿・便失禁をすることも。



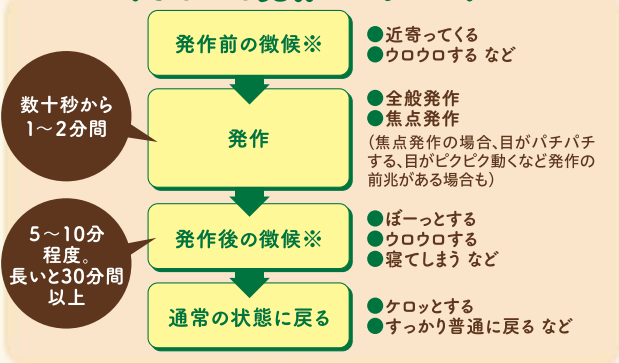
焦点発作

体の一部にだけ症状があらわれる発作で、片足だけを上げる動きが見られたり、顔がピクピク動いたりする様子が見られるなど症状はさまざま。



「てんかん」と聞くと、全身を激しく動かす発作をイメージしがちですが、実際の発作の症状にはさまざまなバリエーションがあり、その犬その犬でパターンはほぼ決まっていることも特徴です。

てんかん発作のパターン



※犬によっては認めない場合もあります。

おもな
原因

遺伝や脳の病気が
原因に。

＼脳の病気なし／
特発性てんかん

遺伝的な背景などが疑われるてんかん

＼脳の病気あり／
構造的てんかん

脳腫瘍や脳の形態異常、脳炎などが原因

生後半年から
6才までに
初めての
てんかん発作を
起こしがち

診断のポイント

発作がてんかん発作なのか、脳に病気があるかの
2つの観点から診断していきます。

1 本当に
てんかん発作なのか?

問診や動画の確認、場合によっては脳波検査も行い、てんかん発作かどうかを鑑別。脳以外に発作を起こす原因がないかを調べるため一般身体検査、尿検査、血液検査も実施。

2 脳の病気
があるか?

脳に病気があれば、その治療も行わないとてんかん発作のコントロールは難しいです。そのため、神経学的検査やMRI、脳脊髄液検査などで、病気の有無を調べます。

おもな
治療

通常自然に治ることはなく、投薬治療によって発作をコントロールしながら、生涯にわたってつきあっていく必要があります。投薬の開始は、発作の頻度や症状など国際的なガイドラインを参考にいきます。かかりつけの動物病院で相談しましょう。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと
2号(2ヶ月分)無料!!